



東北商店株式会社
www.tohokushoten.com

被覆線・雑品
非鉄金属買収

貿易業

東北商店株式会社
□本社
大阪市住之江区新北島5-3-16
TEL: 06-6683-8828
□南港事業所
TEL: 06-6613-8838
□千葉支店
TEL: 0436-76-7277

グループ会社

□東北エント株式会社
兵庫県姫路市網干区浜田1585
TEL: 079-271-5025
www.tohoku-ent.com
□東北ライド株式会社
愛知県海部郡陸田町大字蟹江新田
字大海用172番
TEL: 0567-94-5688

日刊メタルレポート

発行所
株式会社 日刊金属新聞社
本社 大阪府城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表
購読料 半年44,100円(前納) 3カ月22,050円

自動車は生産、販売とも減少

新設住宅着工八カ月連続増

橋本金属 アルミ橋本健一郎氏レポート①

【概況】五月前半は米ウオイルストリートジャーナル誌でFRBの金融緩和縮小観測がでる、などのマイナス材料はあったものの、豪州準備銀行や韓国準備銀行の利下げによる世界的な過剰流動性資金の流入期待や、米小売売上高が〇・一％増と予測を上回った事による実体経済への期待から、LME銅相場は七、一九六ドル(セツル)と、前月最終価格より一二三ドル上げの前半締めとなった。

後半は独ZEW景況感指数が三六・四と予測の四〇を下回った事、ユーロ・ドルが一・三〇を割り込んだ事、さらに一、三〇期の独GDPが一・一と予測の〇・三を下回るなどマイナス材料もあったが、FRBバーナンキ議長が金融緩和継続したことによるドル安・ユーロ高、五月の米ミシガン大消費者信頼感指数が〇七年以来の高水準だったことによる米ファンダメンタルズの見直しを受けて、LME銅相場は六月四日現在、前半締めから一三五ドル上昇の七、三三〇ドル、建値七八万円のスタートとなった。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年六・五％減の七四万七、七三〇台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比七・三％減の二一萬九、〇九九台。

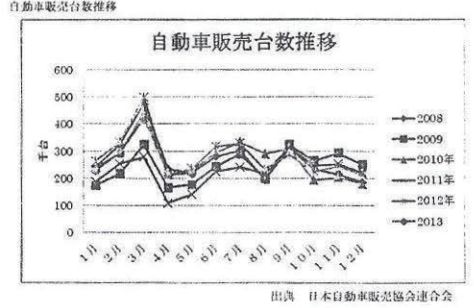
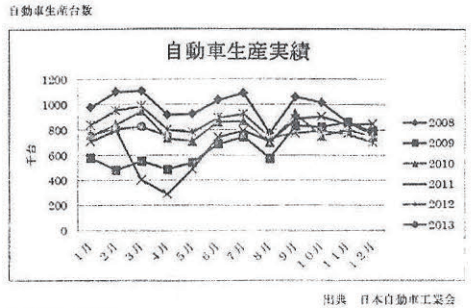
(二面へ続く)

◆自動車生産台数

	2月	3月	4月
生産台数	86万8194台	82万3145台	74万7730台
前年比	-15.1%	-16.4%	-6.5%

◆自動車販売台数

	3月	4月	5月
販売台数	42万69台	21万3165台	21万9099台
前年比	-15.6%	+2%	-7.3%

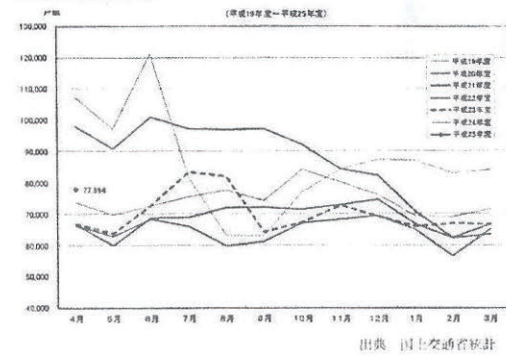


銅輸出少輸入はスクラップが大幅減

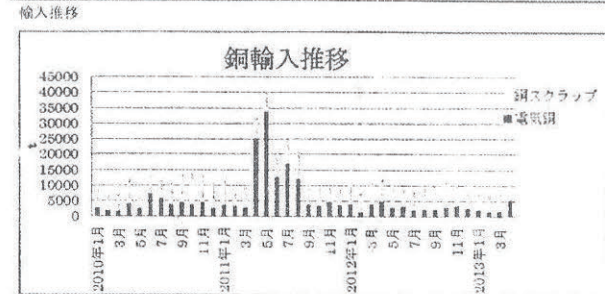
伸銅品電線出荷は建設向けなど増加
伸銅品電線出荷は建設向けなど増加

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比五・八%増の七万七、八九四戸であった。

	2月	3月	4月
◆新設住宅着工戸数			
新設住宅着工戸数	6万8969戸	7万1456戸	7万7894戸
前年比	+3%	+7.3%	+5.8%

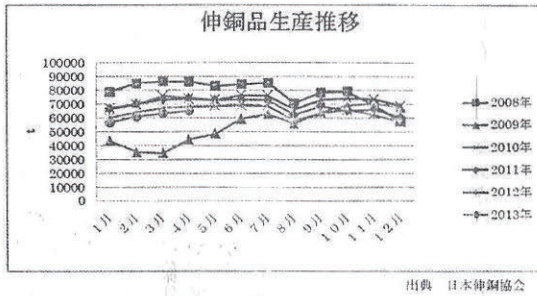
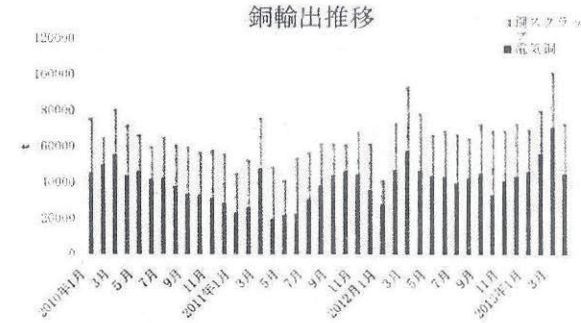


	2月	3月	4月
輸入			
電気銅	1422t	1618t	5063t
前年比	+11.8%	-57.5%	+1.7%
スクラップ	5434t	5850t	5170t
前年比	-14%	-18.2%	-26.7%



◆貿易関連指標
財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が四・一%減、四方四、九〇・一、スクラップが一・七%減の二万八、二七五・一。

	2月	3月	4月
輸出			
電気銅	5万6285t	7万117t	4万4901t
前年比	+19.7%	+23%	-4.1%
スクラップ	2万3956t	3万845t	2万8275t
前年比	-9.5%	-14.2%	-11.7%



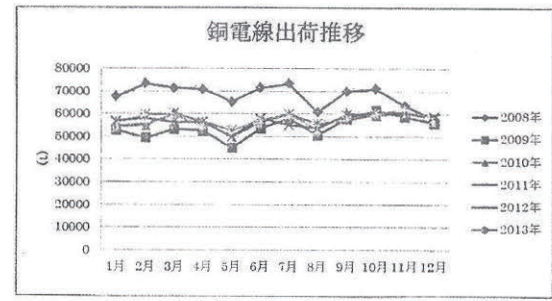
【前月の国内指標】
日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比三・八%減の六万五、二二〇・一。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前年比二・九%減の五万四、四〇〇・一であった。(六面に続く)

銅相場 上値は七、五〇〇ドルを予測

銅原料 メーカーは買い気配になるか

(二面より続く)



出典 日本電線工業会

【見通し】
四月は、米国金融緩和縮小観測と 中国経済ファンダメンタルズに一喜一憂した月となった。

米金融緩和縮小観測の報道がでる一方でFRBバーナンキ議長が緩和策の継続を発表、また英銀大手HSBC発表の五月の中国製造業購買担当者指数(PMI指数)が四九・六と前月の五〇・四から低下、七カ月ぶりに景気判断の五〇を下回ったことから。

自動車生産は前年比六・五%減の八カ月連続マイナス。国内向け生産が一・五%増と回復する一方、輸出向け生産が一・一%減。販売の方はまたまた前年比割れの七・三%減。貨物車が七%増だったが、乗用車が九%減だったことから。

新設住宅着工戸数は先月に続き八カ月連続増加、前年比五・八%増(季節調整済み前月比三・九%増)の七万七、八九四戸。今月も唯一堅調な住宅関連。アベノミクスによる長期金利の上昇に伴う住宅ローン金利など今後の動向に注目。

伸銅品生産量は前年比三・八%減の六万五、二一〇tと六カ月連続マイナス。三五年ぶりの低水準。

銅電線出荷量は、前年比二・九%減の五万四、四〇〇tと五カ月連続マイナス。うち電力・建設、電販は二%増、六・六%増の二二カ月連続プラス。通信・自動車は七・九%減、

八・二%減の八カ月連続マイナス。引き続き自動車の減少幅の拡大が影響したとの見解。

輸出に関しては、電気銅輸出が前年比四・一%減の四万四、九〇一tと大幅悪化。銅スクラップは一・七%減の二万八、二七五t。スクラップ発生不足による内需復活や円安による日本製電気銅の需要回復から。

輸入は電気銅が一・七%増の五、〇五三t。スクラップは二六・七%減の五、一七〇t。電気銅はスクラップ代替品としての内需の復活で上昇、スクラップは大幅な円安による割高感から大幅減少。

【銅需給に関して】
依然住宅関連は新設住宅着工戸数が前年比五・八%増、八カ月連続増加と堅調なもの、まだまだ自動車は生産が前年割れが続く先行きが不透明。

五月の国内販売台数も七・三%減と改善はまだ見られない。
ただ復興需要、増税前の駆け込み需要やアベノミクスによる公共事業新の増加なども期待でき、今月からメーカーは買い気配になるのでは。

【銅価格に関して】
対ドル・円でのユーロ価格と中国経済指標に一喜一憂する事が予測される。

ユーロ価格に関してはECBが利下げに踏み切った事、債務縮小期限を延ばすなど金融緩和に舵を切り出していることからみれば、すでに緩和を始めている日米通貨よりは安くなる可能性が高く上値重い。

また過剰流動性資金が今月も株、国債、通貨に流れており、コモディティ(商品)への流入がみられないことから、上値は五月後半高値付近の七、五〇〇ドルを予測。

下値は中国の上海株が五週連続上昇していることや、五月の中国当局発表の製造業購買担当者景況感指数(PMI)が五〇・八と先月の五〇・六から上昇し、中国経済の底堅さを確認出来たとの判断から五月前半安値の六、九〇〇ドルを予測。

銅建値に関しては七四、八〇万円程度と予測している。

◇東工取(五日前引)

金	四、五二円
銀	出 来 ず
白金	四、八四六
パラジウム	出 来 ず